

# 遊談

公開トークセッションop1

## 「ジュツってなに？」

技術や芸術、「ジュツ」をめぐる様々なジャンルの方が語り合います。  
物や事を創り出す先に見えてくる、それぞれの「あり方」。  
「違う」語り口を通して見える、蓄積された経験。語りから感じる人柄。  
一日かぎりの、「ことばの遊談」開催です。

第1部 出演者

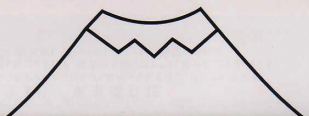
- ◆大倉摩子(舞踏家)
- ◆小倉ヒラク(グラフィックデザイナー)
- ◆藤藤あや(映画監督)
- ◆宮本重男(和紙職人)◆渡辺大堅(書家)

第2部 出演者

- ◆雨宮千春(雑誌編集者)◆牛田 茂(整体師)
- ◆奥石一久(パティシエ)◆佐藤浩史(葡萄農家)
- ◆丹澤宏美(写真家)◆鳥屋尾 健(自然ガイド)
- ◆藤井由紀(看護師)◆堀内太年司(美容師)
- ◆山森政之(クライマー)

記録写真 ◆川村幼子(写真家) 司会 ◆高村直喜(宿当主)◆田辺玄(ミュージシャン)

# ホトリニテ



## 畔にて遊談。 2011年9月4日(日)

◇第1部13:00~15:00(開場30分前)

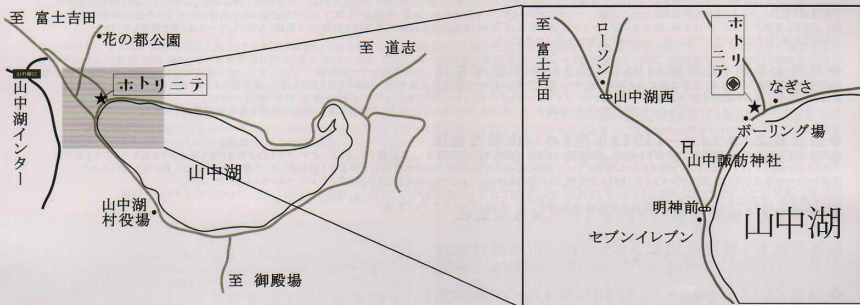
◇第2部15:30~17:30

料金 前売り2000円/当日2500円 限定50名様

トーク会場/ホトリニテ【〒401-0501 山梨県南都留郡山中湖村山中1464】  
問合せ\*前売りは、お電話またはメールにて受付。

TEL 0555-62-0548 / 080-5645-5115

E-mail hotorinite@gmail.com



主な交通  
と  
所要時間

東京方面から車の場合  
高速バスと徒歩の場合  
列車 バス 徒歩の場合

中央自動車道(約100分)/東名高速道路(約120分)

中央高速バスで新宿から(約115分)山中湖ホテルマウント富士入口下車徒歩5分

新宿(中央本線)→大月→富士吉田駅→(富士急バス)→山中湖ホテルマウント富士入口下車徒歩5分(全約150分)

**第1部 出演者**

◆大倉厚矢子(舞踏家)1977年生まれ/埼玉県在住

1999年より舞踏家大森政孝(天狼星堂主宰)に師事し、天狼星堂舞踏公演に出演している。2001よりソロ活動も始め、劇場の他にも野外、美容室、美術館等でも踊る。2003年度第35回舞踏批評家協会賞新人賞を受賞。現在も、天狼星堂メンバーとして、ソロの舞踏手として活動中、自分の中から内面を見つめる舞踏は圧倒的な存在感を持っている。

◆小倉ヒラク(グラフィックデザイナー/小倉工作室主宰)1983年生まれ/東京都在住

「アザビ」のプロジェクトリーダー。バイオマスや環境技術など、ローテクをアースに軸にする小倉工作室主宰。10代終わりから足しげく海外へ足を運び、アジア-中東を経てヨーロッパの街を経て国内に就職するタイミングを逃し、親と見てアートの世界へ足を踏み入れるが学問の道に進まされ、南方の合間にアザビに続けることを決断する。グラフィックWEBのデザイン・ディレクション、都市計画やインテリアの企画、ゲストハウス運営や発酵の研究など国内・国外問わずノマドに仕事しつつ、時間があれば銭湯巡りや古本収集に精を出す。座右の銘は、「森羅万象に愛を持す」。

◆額竈あや(映画監督)1974年生まれ/東京都在住

白学学園東京 東京都在住。2001年ボレボレ文芸社に入社、映画「アフレコと北風」(本橋成一監督)の製作・配給・宣伝に携わる。映画「ナギと現れば」(同監督)のプロデューサーを経てフリーとなり、映画「祝の島」(2010年)を監督する。

◆宮本重男(和紙職人)1946年生まれ/身延町在住

私の職人の職能は不純で、もちろん和紙は大好きですが、自分で譲り渡さなかった理由は①田舎暮らしがしたい②井上ひさしの原稿用紙を作りたい③い紙の千代紙の原紙を造りたいと、家族以外の願望が優先でした。山梨に住み始めて30年たちまちが25年前から永六輔さんと知り合い、永さんのオリジナルの復讐を提供することとなりました。今は、西湖いやししの里根場にて、紙屋「逆手山房」を営んでいます。

◆渡辺大聖(書家)1962年生まれ/富士吉田市在住

富士山山麓静光寺から吉祥寺住職。1984年東北大学理学部数学科卒業、専門は「代数多様体上の曲線論」。大学卒業後、埼玉県平林寺専門道場に系原憲忠老師に参入し、数珠修行を修め、89年断職後、高校にて教職を執るもかたが、書家渡辺大聖師匠に入門。書、刻字を学ぶ。2001年毎日書道展毎日賞、同賞会員、書道研究会登壇。山梨書道協会常任理事。同年、先住職の没後、住職となる。以後、「直心道場禅会」を主催し若者の指導に当たる。自然科学をふまえた禅を实践し、書に表現することを目的として日々研鑽している。

**第2部 出演者**

◆両宮千春(雑誌編集者)1968年生まれ/甲州市勝沼町在住

編集者。都内の編集雑誌「コトブキ」勤務の後、活動地を山梨に移す。2004年-2009年まで暮らし密着・造形型の雑誌「ホト」といよしを制作し、多くの読者に支持される。その後2009年10月に山梨のあふらい普通電学にて雑誌「cococho」を創刊。編集長として多くのライター、デザイナー、イラストレーターと交わる。事務所内ではギャラリー、セレクトショップを運営。今年から年に2回甲府市内にあるオアシス通商ビルを企画・運営。甲府の真ん中でのたし事をつねに考える。

◆牛田 茂(整体師)1968年生まれ/富士吉田市在住

ただ今整体院院長。 富士吉田市に生まれ育ち、富士河口湖観光局よりボート競技を始め、自身の腰痛悩みに、身体の痛みは心の痛みだというのを痛感。自分と同じ思いをしていたという思いを胸に2003年たまたま富士整体院を開業。現在は「ランニングで山梨を元気づける」「子供たちに正しい「気」を付け」をテーマに、整体の知識を多くの人に生かすことに取り組んでいる。現役時ボート戦競山梨・北海道・福岡 国民体育大会/優勝◇第28回29回 全日本新人戦/優勝◇第15回 全日本大学選手権/準優勝

◆興石一久(パティシエ)1978年生まれ/富士吉田市在住

富士吉田市に生まれ育ち、和菓子職人の父の影響もあり高校卒業と共に菓子職人を目指す。時代背景として洋菓子の道を選び東京の製菓専門学校に進学。世田谷成城にある有名店(成城山アパルト)にて修業。修業中にパティシエとチョコレートデザイナーにそれぞれインテンシブ等に出品。2003年度ジャパンケーキの「味と技のビエモンテ部門」にて銅賞受賞。翌年、山梨県富士吉田市にある実家のアージュンに戻りパティシエとして活躍中。

◆佐藤浩史(葡萄農家)1974年生まれ/山梨市在住

東京の大学を卒業後、地元の銀行に就職するも、1年半ほど退職。再び上京し、外資系CA TV会社に就職。奥のきっかけは、農地法改正(農業特区)に伴い、2005年建設会社の農業事業立ち上げを、大学の先輩から一緒にやらなかと誘われ福島へ。そこで農業の面白さに惹かれ、翌年、地元山梨で農地を借り、専業農家の道へ。耕作放棄地の再生にも取り組む中、肥料、農薬の選択は多岐にわたる中、土や樹の状態、おしり、安全の為に、何をを選択するか確固たる信念でフルーツを栽培中。JGAP指導員。

◆丹澤宏美(写真家)1978年生まれ、甲府市在住

写真を通じ、日々暮らしを切り取る行為をライフワークとする。舞台、ホーロー等。現在は甲府で続けられている「ファントムプロジェクト」、田辺氏と続けている「定点録音」の活動を継続中。音楽×写真という実験的も行う。

◆鳥屋尾 健(インタープリター/自然ガイド)1976生まれ 北杜市長坂町在住

財団法人キヤン協会 環境教育事業部 課長。インタープリターとして各種自然体験プログラム及び環境教育指導者養成事業に関わる。愛・地球博では、愛・自然学校・里の自然学校の人材育成から関わり、チーム 長として半年間、その後、万博継承事業の「のり学舎」事業でプログラム開発・人材育成にも 関わる。学びの場づくりが、ずっと関わってきていること。2歳の子を産む。

◆藤井由紀(看護師/セラピスト)1969年生まれ/山中湖村在住

看護師である目的の中で生きて育ち、中学2年生時、部活の前で看護師になるとか期に落ちる。山中湖病院で看護師として働き始めるが、興味のある海外ボランティアと看護士と一度は海外に在住し、「つらなためにNGOに参入し、カンボジアでいる」という夢を掲げ、以降、山林や河原など人知れず存在する岩を探し出して登ることで、岩に名前を与え、若人たちの憧れを続ける。イカガい泳ぐ長期休暇のため退職し、ついでにアロマセラピーを学ぶために渡米。帰国後、セラピーと妊娠療法や産後のケア、がんや難治性疾患の方に接し、看護士が広がる。2010年秋、20年を駆けつけ富士山の頂に近くに住むことを実現するとともに、看護師を再開。日々葛藤しながらも、すべては「愛と感謝と気づき」であることを多くの人に思い出しはしとノーテンキに生きつつ、生かされている。

◆堀内太年司(美容師)1967年生まれ/甲斐市在住

15歳美容業界入り。上京、20歳に渡米。2年帰国後クリエティブアパレルを取組、その後帰国。1988年CHARME設立。業界誌などでも連載。新美容出版から「限るべき法則」を出版。ジパングファストアカデミー・インターナショナル、クリエイティブデルタ社に就任。昨年、韓国ソウルにて「アジア・ファストアカデミー・インターナショナル開校。プロスポーツ選手・アーティスト・キャスターなど、数多くの顧客を持ち、国内での講演回数年間30講演を超える。

◆山森政之(クライマー)1973年生まれ/山梨市在住

滋賀県足柄上川村出身。1995年より岩登を開始し、2004年には国体に出場する競技者として活動することもあるが、クライミングのなかでも特に小さな岩を自らの手と足だけで登る「ボルダリング」というジャンルに夢中になり傾倒している。以降、山林や河原など人知れず存在する岩を探し出して登ることで、岩に名前を与え、若人たちの憧れを続ける。イカガい泳ぐ長期休暇のため退職し、ついでにアロマセラピーを学ぶために渡米。帰国後、セラピーと妊娠療法や産後のケア、がんや難治性疾患の方に接し、看護士が広がる。2010年秋、20年を駆けつけ富士山の頂に近くに住むことを実現するとともに、看護師を再開。日々葛藤しながらも、すべては「愛と感謝と気づき」であることを多くの人に思い出しはしとノーテンキに生きつつ、生かされている。

**司会**

◆高村直喜(宿当主)1979年生まれ/山中湖村在住

三代継宿(宿)の当主。宿のコンセプトである「出会いの絶景」を目指し、宿という場所を使い日々真剣に「遊んでいる」。

◆田辺 玄(ミュージシャン)1980年生まれ/甲府市在住

WATER WATER CAMELを中心に活動中。国立音楽大学音楽学・甲府大学でメディアアートを学ぶ。全国各地を飛び回りながら、ライブハウスのみならずカフェやギャラリー、お寺や学校植物園やプラネタリウムなど、多岐なスペースで活動している。またギタリストやエンジニアとしての活動や、TVCM、ウェブサイトの制作、展示空間等の音楽制作など、音を媒体にさまざまな人や場とのコラボレーションも展開している。

**記録写真**

◆川村幼子(写真家)1980年生まれ/山中湖村在住

小学校から甲府で育つ。大学で芸術学専攻。在学中「写真に興味を抱き、卒業後写真の専門学校に進学。その後、東京の出版社にてスタジオとラボの勤務を経て、今年四月、自然の中で人と関わる仕事を求めて故郷山梨に帰る。現在、山中湖在住。